第4回大学生ボランティア
写真展&イベント2018

「被災地と多摩地域の架け橋～私たちが届けたい想い～」

2018/2/14-18

「被災地と多摩地域の架け橋」

2月14日（水）～ 18日（日）、イオンモール多摩平の森にて、第4回大学生ボランティア活動展&イベント2018「被災地と多摩地域の架け橋」が開催されました。

5日間を通して参加団体の活動を紹介するパネルを展示し、17日と18日には活動発表会や東北応援物産展、防災ワークショップなどのイベントを開催しました。

参加団体は、中央大学、明星大学、法政大学、実践女子大学、東京薬科大学、首都大学東京の6つの大学と、日野市の中学生。そして、日野市地域協働課、日野市ボランティア・センター、八王子市ボランティアセンターの3団体です。

2日間で、参加スタッフ数は延べ150人。来場者数は、延べ人数約２,500人でした。パネル展は昨年と同程度の延べ人数約1,000人となりました。

学生交流の様子

17日（土）から始まる2日間のイベントの前には、交流の時間が設けられました。用意していただいたカードに自分の名前と連絡先を記入したものを交換しながら、自分たちの日頃の活動の話を交えた自己紹介を行いました。

参加した学生にとっては、とても貴重な時間になったことと思います。

平木氏による間仕切りワークショップ

17日（土）は、本学の災害復興・都市防災研究室（市古研究室）の大学院生である平木さんによる間仕切りワークショップが行われました。避難所で生活をする方々のプライバシーを守る、紙管と布でできた間仕切りを実際に組み立てるところから始まり、写真等を用いながら、ご紹介いただきました。実際に避難所へ出向いた貴重な話もしていただき、来場者の方は真剣に話を聞いている様子で、積極的に質問もしていました。とても参考になるワークショップとなりました。

活動パネル展示

「私たちが見た現場と、感じたこと」というテーマで各参加団体がパネルの展示を行いました。本学からは、ボランティアセンターの紹介と東日本きずなプロジェクトの活動を紹介するパネルを展示しました。

学生による活動発表

活動発表会では、大学生と日野市の中学生によるスライド発表が行われました。本学からは、17日（土）にはボランティアセンターの学生コーディネーター1名、18日（日）には東日本きずなプロジェクトから2名が発表しました。

「ふくしまスタディーツアー」に参加した学生コーディネーターは、福島県の現状・魅力発信、私たちができることをテーマに自ら考えた取り組みについて発表しました。 岩手県大槌町で積極的に活動をしている東日本きずなプロジェクトからは、今年の活動報告や震災から6年半が経った今もなお復興途上である現状についての発表がありました。

会場は大盛況で老若男女様々な方々が学生たちの発表に聞き入っていました。どちらの発表も、これからもずっと東北の魅力を発信していくという強い決意が感じられました。